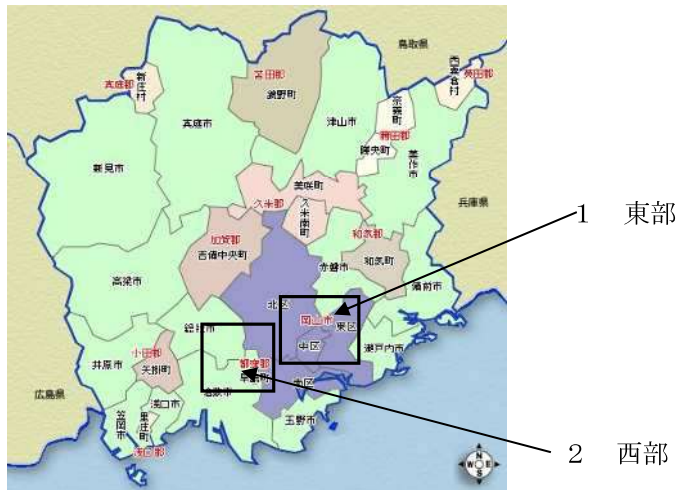
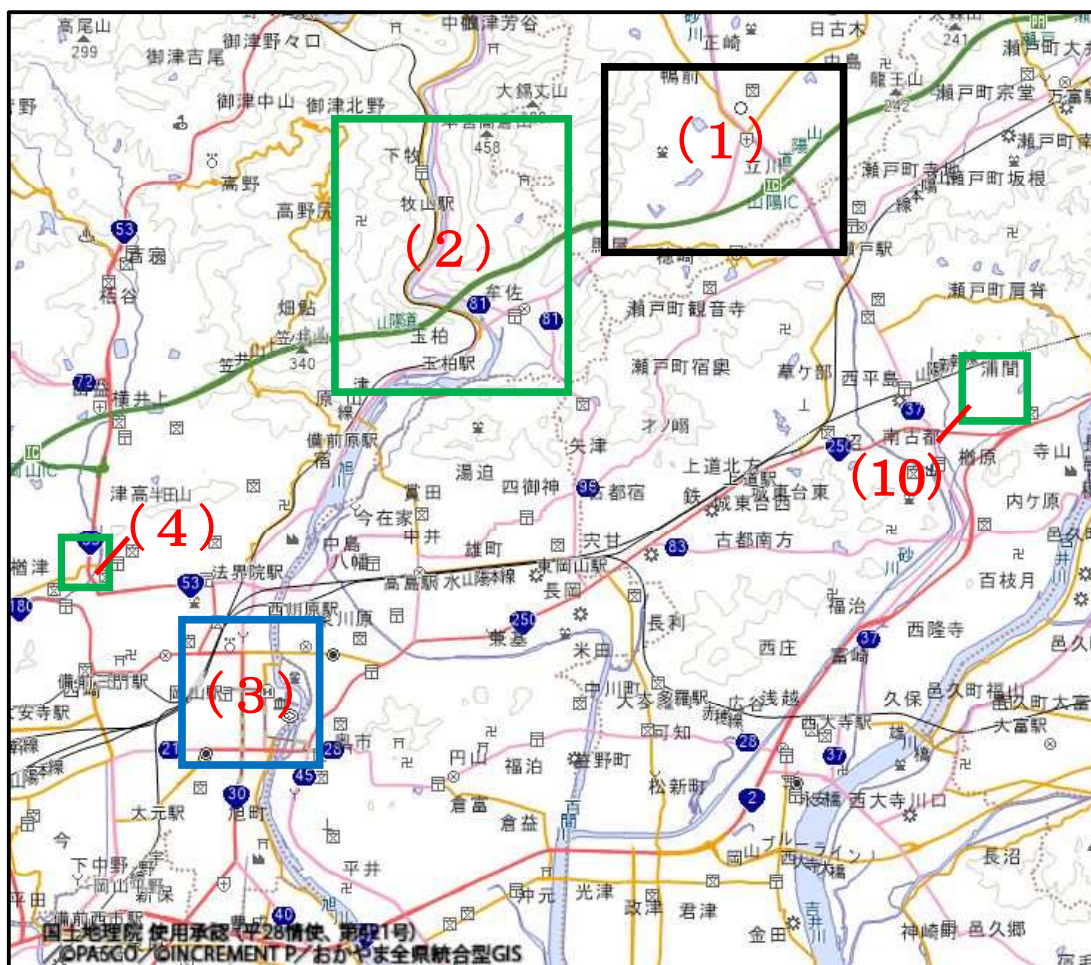


① 申請者	◎岡山市、倉敷市、総社市、赤磐市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま ～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～			
④ ストーリーの概要（２００字程度）			
いにしえに吉備と呼ばれた岡山。この地には鬼ノ城と呼ばれる古代山城や巨大墓に立ち並ぶ巨石などの遺跡が現存する。これら遺跡の特徴から吉備津彦命が温羅と呼ばれた鬼を退治する伝説の舞台となった。絶壁にそびえる古代山城は、その名の通り温羅の居城とされ、巨石は命の楯となった。勝利した命は巨大神殿に祀られ、敗れた温羅の首はその側に埋められた。 鬼退治伝説は、古代吉備の繁栄と屈服の歴史を背景とし、桃太郎伝説の原型になったとされ、吉備の多様な遺産は今も訪れる人々を神秘的な物語へと誘ってくれる。			
			
【温羅の居城 鬼城山（鬼ノ城）】		【吉備津彦命を祀る 吉備津神社】	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名			
電 話		FAX	
E-mail			
住 所			

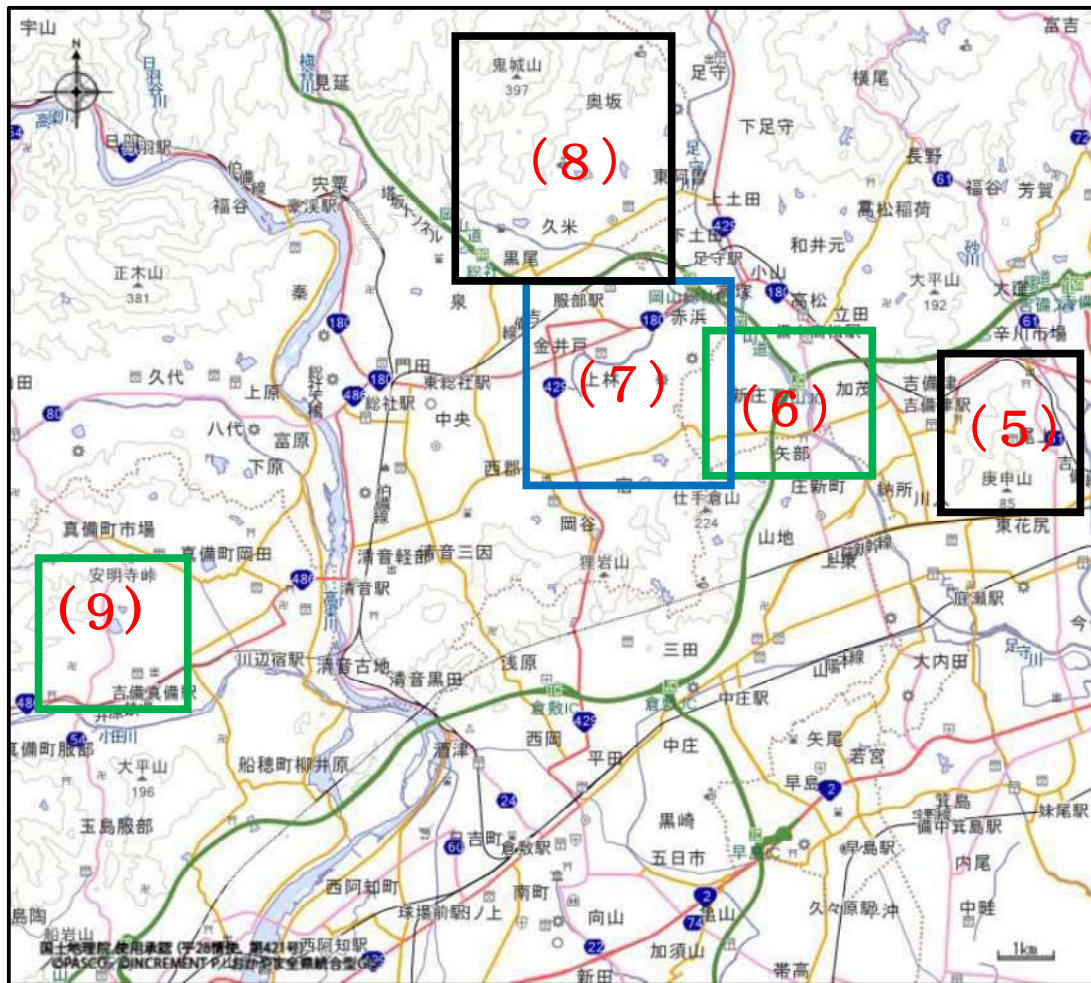
市町村の位置図（地図等）



1 東部



2 西部



構成文化財の位置図（地図等）

※全域にわたる構成文化財

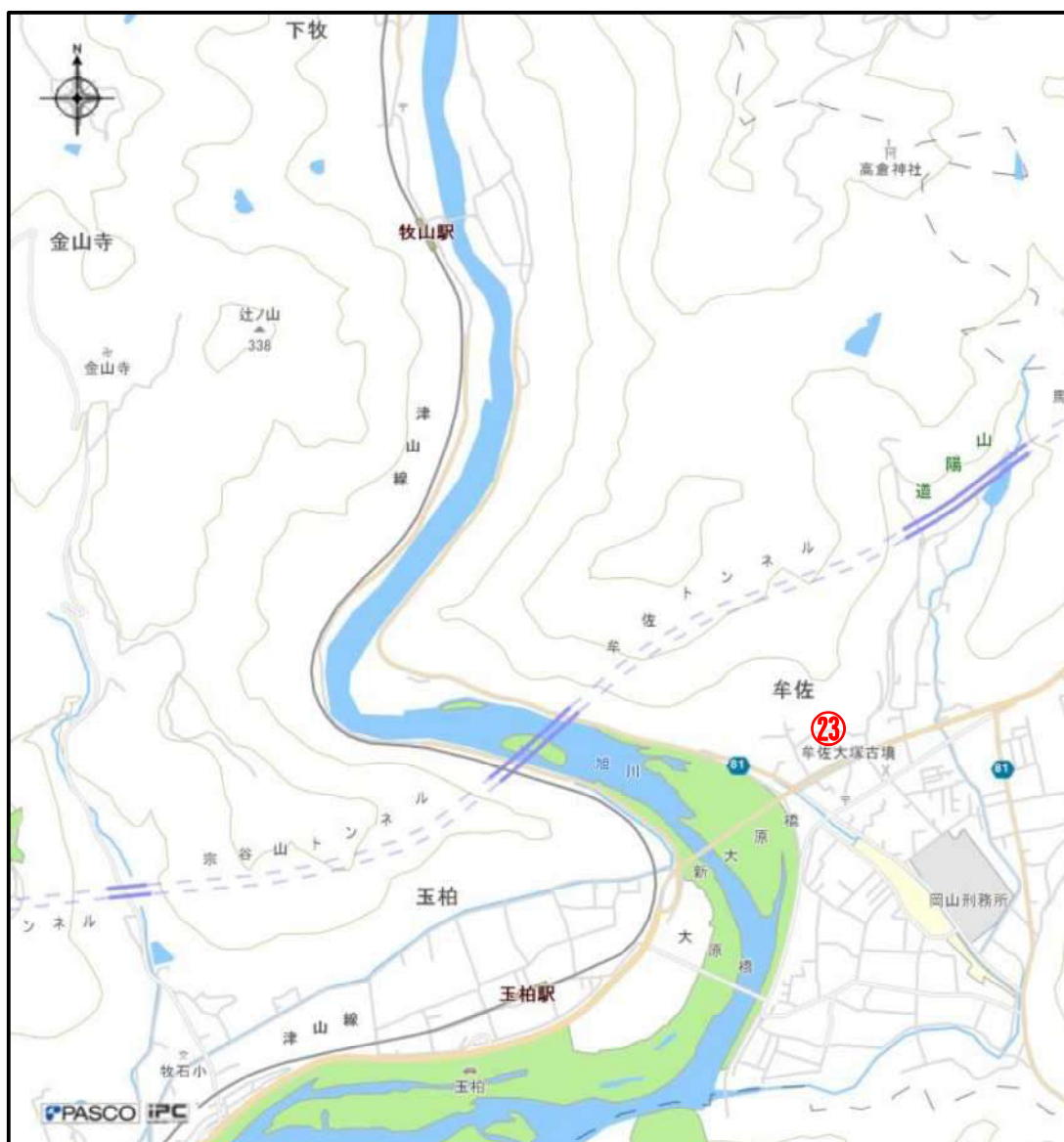
②⑥	岡山の桃（岡山市、倉敷市、総社市、赤磐市）
②⑦	きびだんご（岡山市、倉敷市、総社市）

（1）赤磐市



②①	両宮山古墳
----	-------

(2) 岡山市



②③

牟佐大塚古墳

(3) 岡山市



⑨	吉備津宮勸進帳
⑩	備中国大吉備津宮略記
⑮	吉備津神社境内古図
⑱	特殊器台

(4) 岡山市



②⑧

白山神社の首塚

(5) 岡山市



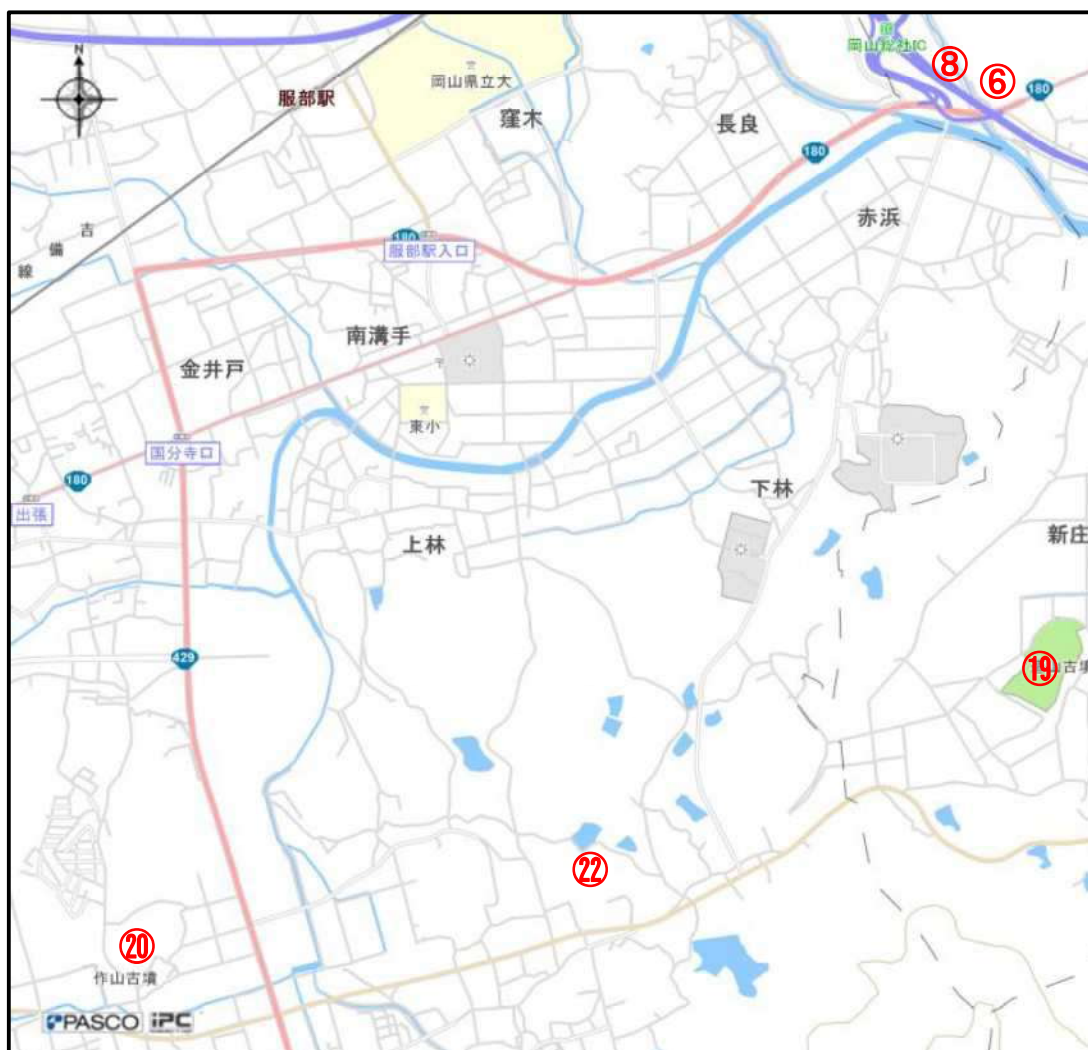
⑤	矢置岩と矢立の神事
⑪	吉備の中山
⑫	吉備津神社
⑬	吉備津神社御釜殿
⑭	鳴釜神事
⑯	吉備津神社の鬼面
⑰	吉備津彦神社
㉕	上東遺跡出土の桃の種

(6) 岡山市～倉敷市



③	楯築遺跡
④	楯築神社の旋帯文石
⑦	鯉喰神社
⑱	造山古墳 第一、二、三、四、五、六古墳

(7) 岡山市～総社市



⑥	矢喰宮
⑧	血吸川
⑱	造山古墳 第一、二、三、四、五、六古墳
⑳	作山古墳 第一古墳
㉓	こうもり塚古墳

(10) 岡山市



②9

浦間茶臼山古墳

ストーリー

1 温羅(鬼)退治の伝説

いにしえに「吉備」と呼ばれた岡山の南部にある山には、そそり立つ絶壁の上に石垣が残る城がある。この城は古代山城の一つであり、下部を石垣としその上に版築土塁で高さ約6mの城壁が総延長約2.8mにおよび変形七角形に築かれた。この一帯は急峻な山容、岩が露出しそびえ立つ山肌、地形に即応した城壁が一体となって、人を寄せつけず周囲にらみを利かせているような情景が広がる。この山は「鬼城山(鬼ノ城)」と呼ばれ、伝説の中ではその名の通り温羅と呼ばれる鬼の居城とされた。

鬼城山から南の平野に降りると、弥生時代に造営された首長の墳丘墓が在り、その大きさは同時期では最大級である。また、その頂には木棺を取り囲むように5つの巨石が立てられている。その風景は、まるで古代遺跡のストーンサークルを思わせる不思議な巨石列であり、あたかも戦いのときに使った巨大な楯を連想させるものである。この墳丘墓が在る丘は「楯築遺跡」と呼ばれ、伝説の中では温羅が放った矢を防ぐためのものとされた。

「鬼」と「戦い」をイメージさせるこの地には、まさしく鬼退治「吉備津彦命による温羅退治」の伝説が残る。

その昔、岡山(吉備)平野が吉備の児島に囲まれた内海だったころ、人の身の丈をはるかに超える温羅と呼ばれる鬼は、平野を見下ろす山の上に城を築き、村人を襲い悪事を重ねていた。大和の王から温羅退治の命令を受けた吉備津彦命は、吉備の地に降り立ち、吉備の中山に陣を構え、その西の小高い丘の頂には温羅の矢を防ぐ巨石の楯を築いた。弓の名手であった命は、岩に矢を置き温羅に向かって矢を放つ。温羅も応戦し城から矢を放つが、互いに放った矢は何度も喰い合って落ちていった。しかし、命が力を込めて放った矢は、ついに温羅の左目を射抜く。温羅の目からは血が吹き出し、川のように流れたという。たまらず雉に化けて逃げる温羅を、鷹になった命が追う。温羅は雉から鯉に化けて血の流れる川に逃げたが、命は鷹から鵜となり、鯉を喰い上げ、見事に温羅を退治し、その首を白山神社の首塚にさらした。

これら伝説の舞台(上記赤色下線部分)は、それぞれ「鬼城山」、「吉備の中山」、「楯築遺跡」、「矢置岩」、「矢喰宮」、「血吸川」、「鯉喰神社」、「白山神社の首塚」として、現在も語り継がれている。また、温羅が生け贄をゆでた鬼の釜、命が空を移動するために使った乗り物など、伝説ゆかりの道具もこの地に残っている。

温羅を退治した吉備津彦命は神として祀られた。吉備津神社と吉備津彦神社は、命が陣を構えその墓がある吉備の中山の麓にあり、吉備津神社には、鳥が翼を広げる姿に見える屋根の巨大本殿をはじめ、約400mもある長大な回廊や650年以上前の門などの建造物が現存し、本殿の北東部の良御崎宮では温羅も祀られ、温羅の顔を思わせる鬼面も伝わっている。



鬼城山の絶壁上に築かれた石垣(総社市)



巨石が立ち並ぶ楯築遺跡(倉敷市)



吉凶を占う鳴釜神事

過去に災いをもたらしていた温羅であったが、やがてこの地の吉凶を告げる使いとなった。命^{みこと}がはねた温羅の首は、夜になると不気味なうなり声を上げたため、命^{みこと}は御釜殿^{みかまでん}の釜の下深くに埋めたが、それでもうなり声はおさまらなかった。ある日、命^{みこと}の夢に温羅が現れ、自分の妻がこの釜を使って米を炊くようにすれば、自身が命^{みこと}の使いとなり釜の音で世の吉凶を占うと告げ、命^{みこと}は温羅の言うとおりにしたという。

「ヴォーン、ヴォーン」とまるで鬼がうなっているように聞こえる釜の音。今も御釜殿では、この音で願いが叶うかを占う「鳴釜神事^{なるかましんじ}」が執り行われている。また、この吉備津神社では、毎年1月3日、吉備津彦命が温羅との戦いに矢を置いたとされる「矢置岩」の前で空に矢を放つ「矢立^{やたて}の神事」も行われ、初詣の参拝客の目を楽しませている。

2 伝説の背景にある大和に対抗する吉備の勢力 ―巨大な墓―

古代吉備は、大和に匹敵する勢力を誇っていた。しばしば大和と対抗し屈服したことが『日本書紀』や『古事記』からうかがえ、吉備津彦命と温羅との戦いは、実は大和と吉備の対立を反映したものといわれる。

吉備勢力の強大さを物語るのは、かつての王たちの墓である。温羅伝説にも登場する約1800年前に築かれた楯築遺跡は、同時期の墓としては日本最大級であり、これに続く時期の鯉喰神社一帯の墓も巨大である。また、墓での祭りに使用された円筒形の土器は、この地方で使われ始めたもので、のちに古墳で行われた祭りの道具である埴輪の原型となった。さらに、5世紀代の造山古墳・作山古墳・両宮山古墳は、近畿の天皇陵古墳に匹敵する規模を誇り、小高い山と見間違ふほどである。自由に登ることができるため、その巨大さを体感でき、あたかも祭壇のような段造りの様子や水濠で囲まれた形も見ることができる。

今も残る巨大な墓は、古くから文化が花開き、強大な勢力が存在していたこの地の繁栄を感じさせてくれる。



国内第4位の巨大古墳 造山古墳（岡山市）



水で取り囲まれた両宮山古墳（赤磐市）

3 桃太郎の原型

古くから語り継がれてきた吉備津彦命による温羅退治の伝説は後世に引き継がれ、昔話の桃太郎による鬼退治の原型となったとされる。この昔話は、川を流れてきた大きな桃から生まれた桃太郎が、村を荒らし悪さをする鬼と戦うために、道中で家来となった犬、猿、雉とともに鬼を退治する物語である。

桃太郎の名の由来となった桃は、古来より魔よけの道具として使われた。吉備の地は、晴天の多い温暖な気候に恵まれ、古くから桃が栽培されてきた。桃太郎が犬、猿、雉を従えるために与えた「きびだんご」の原料の黍^{きび}は、吉備の地名に由来するともいわれ、今では岡山土産の代表となっている。また、桃太郎の家来の犬、猿、雉は、「犬飼」の名前などで、今もこの地に残っている。このような岡山の気候、風土、歴史と温羅退治の伝説とが密接に結びつき、桃太郎はこの地で生まれた。

遠く瀬戸内海まで見渡せる鬼城山の絶壁から眼下を望めば、古くから護り伝えられた巨大古墳などの多様な遺産と、ほかでは見ることのできない吉備津彦命と温羅の戦いの世界が広がり、吉備の地を訪れる人々を神秘的な物語へと誘^{いざな}ってくれる。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	鬼城山 (鬼ノ城)	国史跡	温羅伝説の中では、温羅の居城と伝えられているが、実は城内面積約 30 ha に及ぶ巨大な古代山城。門や角楼などが復元されている。	総社市
②	鬼の釜	市重文 (工芸品)	鬼ノ城近くにあり、温羅が生け贄をゆでた釜と伝えられている。実際には、鎌倉時代の僧重源が衆生施浴のため鑄造させたものとされている。	総社市
③	楯築遺跡	国史跡	弥生時代後期に築かれた墳丘墓で、その大きさは全国最大級である。頂に立つ 5 個の巨石は、温羅伝説の中で吉備津彦命が温羅との戦いで築いた楯の跡と伝えられている。	倉敷市
④	楯築神社の弧帯文石	国重文 (考古資料)	吉備津彦命が温羅との戦いに使った空飛ぶ乗り物とも伝えられている。楯築遺跡の上に鎮座する楯築神社の御神体で、「弧帯文石」とも呼ばれる。全面に帯状の弧を描く文様が刻まれ、正面には人の顔が造り出されている。弥生時代の石造彫刻として最も優れたものである。	倉敷市
⑤	矢置岩と矢立の神事	未指定	吉備津彦命が温羅との戦いの際に吉備津彦命が矢を置いたとされる岩。現在毎年 1 月 3 日に矢立の神事が行われ、1 年の泰平が祈願されている。	岡山市
⑥	矢喰宮	未指定	温羅伝説の中で、吉備津彦命と温羅の射た矢が空中で衝突し、落下した場所に祀られた神社。神社の境内には温羅が投げたと伝えられる巨石も残されている。	岡山市
⑦	鯉喰神社 (鯉喰神社遺跡)	未指定	鯉に化けて逃げる温羅を、吉備津彦命が鵜になり捕まえた場所に祀られた神社。実は楯築遺跡と同じく弥生時代末期の墳丘墓で、弧帯文石の類品や特殊器台が見つかっている。	倉敷市
⑧	血吸川	未指定	鬼城山を源流とする川で、吉備津彦命との戦いで傷ついた温羅の血が流れて真っ赤になったと伝えられ、下流には「赤浜」の地名も残る。名前の由来は、鉄分が含まれた川の水が赤かったためと言われ、この地域で製鉄が盛んであったことをうかがわせる。	岡山市 総社市
⑨	吉備津宮勸進帳	未指定	1583 年に成立した吉備津神社の記録で、吉備津彦命による鬼退治の記載がある。温羅伝説は 600 年以上前には成立していたとされ、年号がはっきりした記録として最も古いのがこの資料である。	岡山市

番号	文化財の名称 (※ 1)	指定等の状況 (※ 2)	ストーリーの中の位置づけ (※ 3)	文化財の所在地 (※ 4)
⑩	びつちゅうのくにおおき びつ の み や り や つ き 備 中国大吉備津宮略記	未指定	江戸時代後期に成立した吉備津神社の由来が記されている文書で、「温羅」の名が登場するとともに、温羅は後に吉備津彦命の家臣となったと記されている。	岡山市
⑪	き び なかやま 吉備の中山	未指定	『古今和歌集』や『枕草子』など古くからその名が知られた名山。温羅との戦いで吉備津彦命が布陣したと伝承されている。山裾には吉備津神社や吉備津彦神社が鎮座し、山頂南側には吉備津彦命の墓とされる全長約 105m の中山茶臼山古墳がある。	岡山市
⑫	き び つ じんじや 吉備津神社	国宝（本殿・拝殿） 国重文（北随神門・南随神門ほか） 県重文（回廊ほか）	吉備津彦命を祀る神社で、鳥が翼を広げたように見える、比翼入母屋造の秀麗な本殿は、拝殿とともに国宝に指定されている。境内には、命が温羅との戦いの際に矢を置いたと伝えられる矢置岩、釜の下に鬼の首が埋められたと伝えられている御釜殿など、温羅伝説ゆかりの場所も多い。	岡山市
⑬	吉備津神社御釜殿 おかま で ん	国重文	温羅の首を釜の下に埋めたと伝えられ、釜の鳴動で吉凶を占うという鳴釜神事で有名な神殿。現在の建物は、1612 年の再建。	岡山市
⑭	なるかましんじ 鳴釜神事	未指定	吉備津神社御釜殿の釜からでる音により、吉凶を占う神事。室町時代末期には、都に聞こえるほどの神事であった。温羅伝説では、釜の下に鬼の首が埋められたと伝えられている。	岡山市
⑮	き び つ じんじやけいだい こ ず 吉備津神社境内古図	未指定	鬼城山、楯築山、鯉喰宮、血吸川、矢喰合宮といった温羅伝説にまつわる場所も描かれた吉備津神社の境内図。吉備津神社が伝説ゆかりの地を重視していたことが分かる。	岡山市
⑯	き び つ じんじや おにめん 吉備津神社の鬼面	未指定	額に差し込まれた角は失われているが、丸い目や出っ歯、大きな鼻はどこかユーモラスであり、温羅伝説に登場する鬼の温羅の表情を想像させる。16 世紀ごろの作と考えられる。	岡山市
⑰	き び つ ひ こ じんじや 吉備津彦神社	県重文（本殿ほか）ほか	吉備津彦命を祀る神社で、吉備国が備前・備中・備後に分割された際に備前一宮として建てられたとされる。境内の温羅神社に温羅も祀られている。	岡山市
⑱	とくしゆきだい 特殊器台	国重文 (考古資料)	吉備文化の独自性を象徴する考古資料で、弥生時代後期に吉備で葬送の祭りに使用された土器。温羅伝説ゆかりの楯築遺跡や鯉喰神社でも出土している。また、奈良県の箸墓古墳でも出土するほか、円筒埴輪の祖型ともされる。	岡山市

番号	文化財の名称 (※ 1)	指定等の状況 (※ 2)	ストーリーの中の位置づけ (※ 3)	文化財の所在地 (※ 4)
①⑨	つくりやまこふん 造山古墳 第一、二、三、四、 五、六古墳	国史跡	吉備勢力の強大さを伝える巨大前方後円墳。5 世紀前半に造営され、規模は全長約 350m と全国第 4 位で、吉備に巨大勢力があったことを伝える。周辺には朝鮮半島と関係の深い遺物が出土した第一古墳（榊山古墳）や、直弧文と呼ばれる精緻な文様で飾られた石障のある第五古墳（千足古墳）など、6 つの陪塚がある。鬼ノ城から見下ろすことができる。	岡山市
②⑩	つくりやまこふん 作山古墳 第一古墳	国史跡	吉備勢力の強大さを伝える巨大前方後円墳。5 世紀中頃に造営された全長約 286m の巨大前方後円墳で、全国第 10 位の大きさである。鬼ノ城から見下ろすことができる。	総社市
②⑪	りょうぐうざんこふん 両宮山古墳	国史跡	吉備勢力の強大さを伝える巨大前方後円墳。5 世紀後半に築かれ、墳長約 206m で、吉備では造山古墳、作山古墳に次ぐ規模となっている。吉備では珍しく水濠に囲まれている。	赤磐市
②⑫	こうもりづかこふん こうもり塚古墳	国史跡	吉備三巨石墳の一つ。全長約 96m の前方後円墳で、横穴式石室は全長約 19.9m で吉備最大の石室を持ち、この地方を治めた勢力の巨大さを伝えてくれる。	総社市
②⑬	むさおおつかこふん 牟佐大塚古墳	国史跡	吉備三巨石墳の一つ。6 世紀末ごろに造られた大形の円墳で、横穴式石室も全長 18.0m と巨大である。吉備津彦命の子孫とされる上道氏の墓と考えられている。	岡山市
②⑭	やたおおつかこふん 箭田大塚古墳	国史跡	吉備三巨石墳の一つ。直径約 50m の円墳で、全長 19.1m の巨大な横穴式石室をもつ。吉備津彦命の弟の子孫とされる下道氏の墓と考えられている。	倉敷市
②⑮	じょうとういせきしゅつど もも たね 上東遺跡出土の桃の種	未指定	温羅伝説ゆかりの地に近接する、弥生時代の上東遺跡から出土した 9,606 個の桃の種。一つの遺構から出土した数では全国的にも群を抜いて多く、古くから岡山と桃のつながりが深かったことをうかがわせる。	岡山市
②⑯	おかやま もも 岡山の桃	未指定	古くから鬼は桃を恐れると言われており、桃太郎とのつながりも想像させる。岡山は、現在も日本有数の桃の産地で、桃の栽培に適した気候・風土の中で桃太郎伝説が育まれてきた。	岡山市 倉敷市 総社市 赤磐市
②⑰	きびだんご	未指定	桃太郎伝説の地・岡山を代表する銘菓。桃太郎が鬼退治の際に犬・猿・雉に与えた黍団子をモチーフとし、江戸時代には吉備津神社の門前で売られていた。「吉備」の地名も、「黍」に由来するとの説がある。	岡山市 倉敷市 総社市

番号	文化財の名称 (※ 1)	指定等の状況 (※ 2)	ストーリーの中の位置づけ (※ 3)	文化財の所在地 (※ 4)
⑳	はくさんじんじや くびづか 白山神社の首塚	未指定 (遺跡地)	温羅との戦いに勝利した吉備津彦命が温羅の首をはね、串にさしてさらしたとされる場所。	岡山市
㉑	うら まちやうすやまこ ふん 浦間茶臼山古墳	国史跡	吉備勢力の強大さを伝える吉備最古の大形前方後円墳。墳長約 138m で最古級の埴輪を伴う。箸墓古墳（奈良県桜井市）の相似形墳のうち、畿内以外の西日本では最も大きいもの。	岡山市

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

① 鬼城山（鬼ノ城）



④ 楯築神社の旋帯文石



② 鬼の釜



⑤ 矢置岩と矢立の神事



③ 楯築遺跡



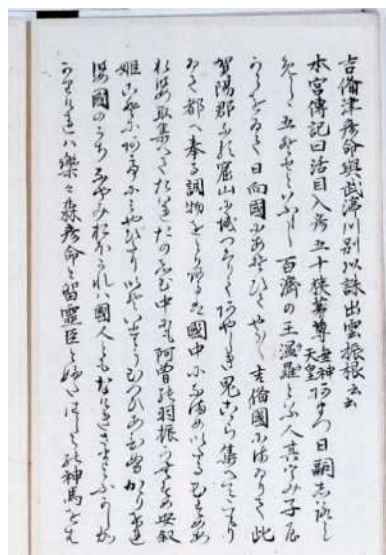
⑥ 矢喰宮



⑨ 吉備津宮勸進帳



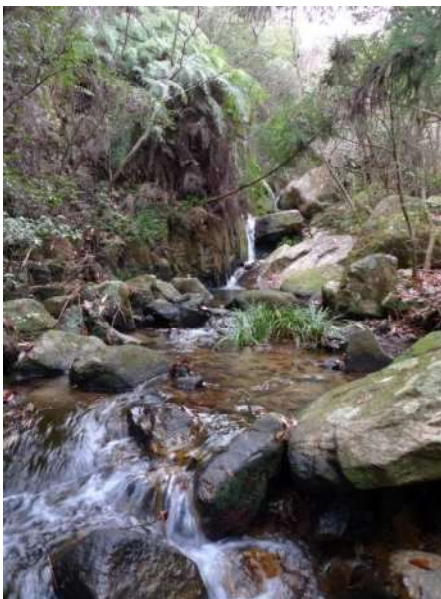
⑩ 備中国大吉備津宮略記



⑦ 鯉喰神社



⑧ 血吸川



⑪ 吉備の中山



⑫ 吉備津神社



⑮ 吉備津神社境内古図



⑬ 吉備津神社御釜殿



⑯ 吉備津神社の鬼面



⑭ 鳴釜神事



⑰ 吉備津彦神社



⑮ 特殊器台



⑳ 作山古墳 第一古墳



㉑ 両宮山古墳



㉒ 造山古墳

第一、二、三、四、五、六古墳



㉓ こうもり塚古墳



(様式3-2)

㉓ 牟佐大塚古墳



㉔ 岡山の桃



㉕ 箭田大塚古墳



㉖ きびだんご



㉗ 上東遺跡出土の桃の種



㉘ 白山神社の首塚



②⑨ 浦間茶臼山古墳



※複数ページにわたっても可

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
6 4	「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～

(1) 将来像 (ビジョン)

岡山市では、「岡山市第6次総合計画 長期構想」において、「古代吉備勢力の繁栄」や「吉備津彦の鬼退治の神話」を含む「先人から引き継ぐ固有の歴史・伝統・文化」を岡山市の強みと特性の1つに位置付けている。さらに、長期構想の実現に向けた観光分野の個別行動計画「岡山市観光振興アクションプラン」では、日本遺産を通じた観光客誘致とともに住民の郷土への愛着や誇りの醸成をしてくこととしている。

倉敷市では、地域固有の文化資源を掘り起こし、産業振興、観光振興につなげるため、まちづくり指標を定めている。

総社市では、さらなる観光客・訪問客の増加によって交流人口を増やすため、歴史文化や日本遺産を活かしながら独自性のある観光振興に取り組むこととしている。

赤磐市では、両宮山古墳など国指定の史跡や歴史ある建築物等の文化財を整備・活用し、魅力を創出することで交流人口の増加を目指すこととしている。

このような状況を踏まえ、日本遺産による中長期的な将来像を次のとおりとする。

[将来像]

①国内外の観光客が訪れ交流の生まれる地域へ

- ・ 桃太郎伝説を通じて、国内外から観光客が訪れ、地域住民、案内ガイド、商店・飲食店の従事者等との交流が生まれ、地域が賑やかになるとともに、交流によって観光客の受入環境が充実したものとなっている。
- ・ 観光客が桃太郎伝説の物語を現地で体感し、その歴史や文化に直接触れることで、観光客から高い評価を得られ、その結果、観光客自らが情報発信を行うことにより、さらに交流人口が拡大している。

②地域住民が誇りを持ち、生き生きと地域の魅力を発信する地域へ

- ・ 地域住民や関係者が、守り、受け継いできた地域の資源（自然、環境、風土、文化、歴史など）が、観光客に評価されることにより、地域住民の地域への愛着や誇りが育まれ、それらを次の世代に受け継ぐことにより、地域の魅力を生き生きと発信している。

③経済活性化で好循環を生む地域へ

- ・ 有料の観光コンテンツを用意することで、質の高い観光商品・サービスが提供され、多様化する観光客のニーズにきめ細かく対応し、その結果観光客の満足度が高まる。その観光客の喜ぶ姿を見て、受け入れる民間事業者側も満足度が高まり、民間事業者による新たなコンテンツの開発や新たな民間事業者の参入など、地域に好循環が生まれている。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：日本遺産関連施設への観光客入館者数（単位：人）

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	65,236	80,010	—	84,000	86,000	90,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		・本日本遺産の構成文化財に隣接し、日本遺産関連情報の提供を行っている入館者数の把握可能な施設の入館者数を集計。 ・2022年度を基準とし、毎年2,000人の増加を目標に設定。 岡山市：造山古墳ビジターセンター 総社市：鬼城山ビジターセンター				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：日本遺産に対する理解を深める取り組みを実施した学校数（単位：校）

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	65	77	37	80	85	90
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		・本日本遺産を構成する4市の学校で、日本遺産の教材等を活用した地域学習を実施した学校数を集計。 ・年1回各市内の学校を対象にアンケートを実施。学校教育での継続的な取り組みにより、地域において日本遺産のストーリーを誇りに思う市民を増やす。 ・2026年度には、4市の小学校のうち、半数以上の学校で地域学習が行われることを目標に設定。				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること

指標③－A：有料の日本遺産関連コンテンツの売上（千円）

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	600	—	—	650	700	750

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	・有料の日本遺産関連コンテンツの売上を集計。協議会が支援した地域主体のコンテンツも含め、各コンテンツに対して参加者が支払った金額を調査し集計する。 ・類似事業を実施した 2021 年度を基準とし、毎年 50 千円増加として目標値を設定。
---------------------	---

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：常時公開している日本遺産の構成文化財が棄損滅失していない割合						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	—	—	—	100	100	100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	・構成文化財が棄損滅失していない（活用可能な状態にある）割合を指標とする。随時確認することで状態把握に努め、割合を維持する。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：構成自治体の延べ宿泊者数（単位：千人）						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	1,519	2,023	—	2,230	2,340	2,450
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	・構成自治体のうち、観光庁の宿泊旅行統計調査の結果が公表されている岡山市・倉敷市の延べ宿泊者数を合計。2022 年度の実績をもとに毎年 5 % の増加として目標値を設定。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

[地域の現状・これまでの成果・課題]

当地域では、日本遺産認定を機に設立した協議会が中心となって、日本遺産認定から6年間、地域活性化のための様々な取組みを行ってきた。協議会事業として4市が連携して情報発信、観光コンテンツの造成、統一看板の整備等の事業を実施することで、複数の市にまたがる桃太郎伝説や、伝説の背景となった古代吉備の繁栄のストーリーを一体的に伝える基盤が整った。また、協議会事業実施にあたっては、地域主体の体験プログラムの造成やガイド養成講座の実施、民間事業者の協議会事業への協力など、地域を巻き込んだ取組みを実施しており、年々、地域で日本遺産に関わる人の裾野を広げることができたのは大きな成果である。

現下の課題は、いかに観光誘客し、経済の活性化により地域へ好循環を生むかである。日本遺産認定からの6年間は、新型コロナウイルスの影響により、国内、国外問わず、誘客が困難であった時期が多かった。今後は、国内外へ向けて本日本遺産の魅力を発信することで来訪者を増やし、地域の事業者が自ら稼ぐ基盤を整えていく必要がある。

以上を踏まえ、協議会が、日本遺産としての認知度向上や観光客誘致を図るとともに地域住民の郷土への愛着や誇りを育むことを目的として実施することとしている以下の5つのコンセプトを柱に協議会や各市が中心となって地域を巻き込んで事業展開することで、地域活性化を図る。

①「桃太郎伝説の生まれたまち」としての魅力を国内外に発信する

WebサイトやSNS、プロモーション動画等により、構成文化財や桃太郎伝説の魅力をわかりやすく国内外に発信していく。また、作成したパンフレットは、商談会や観光展での旅行会社等への訴求資料として活用し、民間による誘客、旅行商品の造成を促進する。

海外においては、岡山空港に直行便が就航し多くの旅行者が訪れている台湾、中国、韓国や地域の歴史・文化に興味をもつ欧州からの旅行者に対して多言語化したWebサイトや動画、パンフレットにより情報発信を行うとともに、Webメディアやインフルエンサーの活用等、それぞれの市場に合った方法を取り入れながら積極的にPRを行う。

②日本遺産の魅力を体感できる観光コンテンツを造成する

多様化する観光客のニーズに対応した観光コンテンツを地域、協議会が主体となって造成する。

造成した観光コンテンツについては、一般観光客向けに紹介するとともに、国内外で開催される観光展や旅行会社との商談会等で売り込んでいく。

③日本遺産に親しみ楽しむことのできる環境づくりを進める

造山古墳ビジターセンターや鬼城山ビジターセンター等の拠点施設を活用して、構成文化財やストーリーを来訪者へ伝える環境づくりを行う。また、これまで整備した統一看板の保守管理や各市の計画に基づいた構成文化財の保護により、来訪者が本日本遺産に親しみ楽しむことのできる環境づくりを進める。

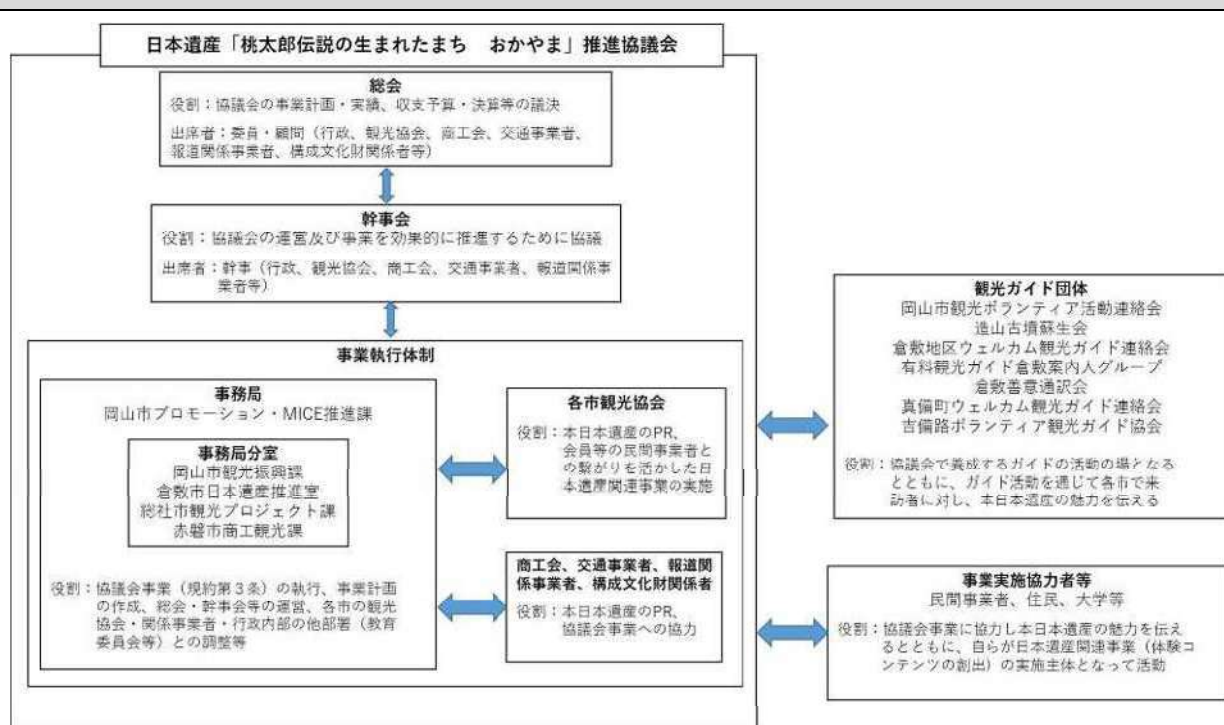
④地域住民の理解、認識を深め地域への愛着や誇りを育む

桃太郎伝説の起源となった「吉備津彦命の温羅退治」や、伝説の背景となった古代吉備の繁栄などについて、小学校や市民向け講座の実施やシンポジウムの開催、観光ガイド等による地域学習の機会の提供等により、地域住民の理解・認識を深め、郷土への愛着や誇りを育む取組を推進する。

⑤日本遺産の魅力を伝える人材を育成する

来訪者に日本遺産の魅力を効果的に伝えられるよう、各市で活躍するボランティアガイドや地域団体等と協力して各種事業を進めるとともに、地域から発信し、来訪者の満足度向上に寄与できる担い手づくりに向けた取組を推進する。

(4) 実施体制



[人材育成・確保の方針]

日本遺産のストーリーや構成文化財の魅力を域内外の人へ伝えるためには、ガイドや日本遺産を活用していく人材、すなわち地域プレイヤーの存在が必要不可欠である。これまで、協議会としては、ガイドマニュアルの作成、ガイド養成講座を行うことで、ガイドの養成を行ってきた。また、地域の団体、店舗、学生の協力を得ながら協議会主催事業を実施することで、地域で日本遺産に関わる人の裾野を広げてきた。今後も、ガイドの養成により日本遺産の魅力を伝えていくとともに、地域を巻き込んだ事業展開によって様々な形で日本遺産に関わる人を増やし、地域の人材育成・確保につなげていく。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」推進協議会は、岡山市、倉敷市、総社市、赤磐市の4市の行政、観光協会、商工会、交通事業者、報道関係事業者、構成文化財関係者等で構成されており、4市からの負担金を財源に事業を実施している。協議会事業実施にあたっては、構成団体へ意見を聴取し、連携しながら事業を実施している。日本遺産の活用は、各市の行政計画にも位置付けられており、それぞれの市の施策として重要なものであることから、今後も4市の行政が主たる財源を支援し、取組を推進していく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財を保存し活用していくためには、地域において日本遺産のストーリーや構成文化財が愛着を感じられることで、行政が行う構成文化財の保存や活用の事業が地域住民に理解されることが必要である。協議会としては、地域住民の日本遺産関連事業への参加を促し、日本遺産に触れる機会を設けることで愛着を醸成する。さらに、愛着を感じた地域住民等が行う日本遺産を活用した取り組みを推進し、さらなる参加を促す。このことにより、地域への経済効果をもたらし、日本遺産に愛着を持って関わる人を増やすことで、構成文化財の持続的な保存や活用に対する理解促進と地域の活性化に繋げていく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	事業実施体制の整備		
概要	地域活性化計画の実現に向け、関係者間の連携と全体の方向性を見据えた事業の実施体制を構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会における推進体制の強化	協議会が行政、観光協会、商工会、交通事業者、報道関係事業者、構成文化財関係者等で構成されることを活かし、総会や幹事会等を通じて多様な意見を集約しながら、事業に取り組む。	協議会
②	他の日本遺産認定自治体との意見交換	岡山県内の日本遺産認定自治体で連携し意見交換することで、事業のブラッシュアップを図る。	各市
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	組織体制における行政組織以外からの参画者数		23 団体
2022			23 団体
2023			23 団体
2024	同上		23 団体
2025	同上		23 団体
2026	同上		23 団体
事業費	2024 年度：100 千円 2025 年度：100 千円 2026 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計	各市の行政計画において日本遺産の活用が位置付けられていることから、行政での財源確保が継続されるよう適切に協議会を運営していく。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名		事業実施のための仕組みの構築	
概要		事業の進捗状況を把握し改善するとともに、協議会での取り組みと協議会以外での取り組みを整理するため、定期的に協議や情報共有を行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	定期的な会議の開催	定期的に会議を開催することにより、協議会内での連携を強化するとともに、事業実施に伴う課題の特定や必要な対応について協議し、より効果的に事業を実施する。	協議会
②	行政計画に基づく各種事業の推進及び見直し	各市の行政計画に位置付けている日本遺産を活用した事業を推進するとともに、行政計画改定時には日本遺産の趣旨を踏まえた見直しを行う。	各市
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	事業の計画・改善を行う会議体の開催頻度		2 回
2022			3 回
2023			2 回
2024	同上		2 回
2025	同上		2 回
2026	同上		2 回
事業費		2024 年度：0 円 2025 年度：0 円 2026 年度：0 円	
継続に向けた事業設計		協議会としても各市としても地域の日本遺産活用した事業を推進し、日本遺産の活用について今後も各市の行政計画に位置付けていく。	

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名		日本遺産を活用する人材の育成と支援	
概要		ガイド人材を育成し、地域のガイド団体の継続的な活動を支援する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド養成講座の実施	日本遺産の魅力を伝えることのできるガイドの育成及びガイドの知識向上のための講座を実施する。	協議会
②	日本遺産ガイドマニュアルの見直し	認定当初に作成したガイドマニュアルの内容を見直し、最新の調査結果等を踏まえたより分かりやすい資料を作成する。	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	ガイド養成講座の修了者数（累計）		46 人
2022			46 人
2023			124 人
2024	同上		139 人
2025	同上		154 人
2026	同上		169 人
事業費		2024 年度：850 千円 2025 年度：300 千円 2026 年度：300 千円	
継続に向けた事業設計		協議会としてガイド養成講座を開催することでガイド人材を育成し、参加者に対して、地域のガイド団体を紹介することで、ガイドとしての活動の場を提供するとともに、ガイド団体の存続と自走を支援する。	

(7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名		構成文化財及び拠点施設等の整備	
概要		構成文化財の保存整備や日本遺産のストーリーや構成文化財の魅力を来訪者へ伝える拠点施設等における案内の充実を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産自転車の整備	構成文化財を巡る交通手段として運用している日本遺産をイメージしたデザインの自転車の整備を行う。	協議会
②	吉備ロマン無料循環バスの実施	構成文化財や吉備路エリアの観光資源を結ぶ周遊バスを運行し、二次交通を整備する。	岡山市
③	構成文化財保存整備事業等の実施	構成文化財の造山古墳、楯築遺跡、鬼城山、作山古墳、両宮山古墳について、保存整備工事、発掘調査、保存活用計画の策定等を実施する。	各市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	構成文化財及び拠点施設の修理・修繕・美装化等の件数		5 件
2022			5 件
2023			5 件
2024	同上		5 件
2025	同上		3 件
2026	同上		3 件
事業費		2024 年度: 207, 061 千円 2025 年度: 142, 395 千円 2026 年度: 145, 695 千円	
継続に向けた事業設計		各市の行政計画に日本遺産を位置付けるとともに、拠点施設を活用し、構成文化財及び日本遺産を活用した事業の重要性を示していくことで、今後も行政による整備等の予算を確保していく。	

(7) - 5 観光事業化

(事業番号 5 - A)

事業名		日本遺産を活用した体験コンテンツ等の開発及び支援	
概要		日本遺産を活用した体験コンテンツの開発や体験コンテンツへの参加促進に向けた取り組みの支援を行うことで観光誘客を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域の体験コンテンツの開発・参加促進支援	地域プレイヤーが実施する体験コンテンツを一体的に地域内外に向けて情報発信することで、参加者の増加を図るとともに、地域における新たなコンテンツの開発を促す。	協議会、民間事業者
②	観光コンテンツの開発及びブラッシュアップ	協議会独自の観光コンテンツを開発することで、構成文化財やストーリーの魅力を伝えとともに観光誘客を図る。	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	観光消費額の増加状況 (有料の日本遺産関連コンテンツの売上)		600,000 円
2022			—
2023			—
2024	同上		650,000 円
2025	同上		700,000 円
2026	同上		750,000 円
事業費	2024 年度 : 5,000 千円 2025 年度 : 7,500 千円 2026 年度 : 8,000 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産のストーリー及び構成文化財の魅力とともに、地域の日本遺産活用コンテンツの魅力を発信することで、各コンテンツの認知度を向上させ、参加者を増やすことで、地域への観光による将来的な経済効果を生み出していく。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号 6 - A)

事業名		域内における日本遺産普及啓発	
概要		域内における日本遺産をテーマにしたイベントの開催やイベント等への出展、パンフレット等の設置、観光ガイドによる地域学習支援により、日本遺産のストーリーを普及啓発していく。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会主催のイベント開催による普及啓発	日本遺産をテーマにしたシンポジウムを開催する。	協議会
②	イベント等での域内への普及啓発	域内のイベント等に出展し、日本遺産のストーリーの認知度向上を図る。	協議会 各市
③	域内施設等でのパンフレット等設置	域内の地域住民が利用する施設へパンフレット等を設置することにより、日本遺産のストーリーを普及啓発する。	協議会 各市
④	観光ガイドによる地域学習支援	観光ガイドが、現地で日本遺産のストーリーや構成文化財の解説をすることにより、域内の学校の地域学習を支援する。	観光ガイド
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	出前講座や地域学習等の学習体験をした人の数		3,672 人
2022			4,630 人
2023			—
2024	同上		4,800 人
2025	同上		4,900 人
2026	同上		5,000 人
事業費		2024 年度：3,200 千円 2025 年度：200 千円 2026 年度：100 千円	
継続に向けた事業設計		事業実施に必要な域内のイベント関係者、パンフレット設置施設、観光ガイドと連携や協力が可能な関係を維持していく。	

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号 7 - A)

事業名		域外への情報発信	
概要		公式HP、SNS、パンフレット等を活用し、日本遺産のストーリーや構成文化財、日本遺産を活用した事業の情報を発信する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	公式 HP の充実	公式 HP での情報発信を充実させ、事業及びストーリーの周知を図る。	協議会
②	公式 SNS での情報発信	公式 SNS での情報発信を充実させ、事業の周知を図る。	協議会
③	動画を活用した情報発信	動画を活用し、日本遺産のストーリーや構成文化財の魅力を発信する。	協議会
④	インバウンド向け情報発信 (BtoB)	海外の旅行会社に対して、日本遺産を含む観光情報の提供を行うことで旅行商品の造成を促す。	岡山市
⑤	インバウンド向け情報発信 (BtoC)	海外の個人旅行者向けに WEB メディアや SNS 等を活用して日本遺産を発信する。	岡山市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会が運営する HP 等の PV 数		184,970PV
2022			237,645PV
2023			254,548PV
2024	同上		290,000PV
2025	同上		320,000PV
2026	同上		350,000PV
事業費		2024 年度 : 3,300 千円 2025 年度 : 4,350 千円 2026 年度 : 3,950 千円	
継続に向けた事業設計		イベント等で公式 HP 及び SNS の周知を図るとともに、関係団体のホームページにリンクを掲載することで、情報発信力の強化を図る。	